

一茶奉句の佐野薬師堂俳額

一、奉納場所 千曲市桑原佐野薬師寺

一、奉納年月 文政十一年（一八二二）三月下旬

一、奉納者 宇都呂庵竹摩

一、願主 素竹。松風。和水。東春。

一、材料 大きさ 桐板。縦九十九cm。横三m八十cm。

一、句数 百句。

抄録

神垣の梅を聞（か）すやにほひ鳥	羽尾	島慶	花にくらす月日は夢かまぼろしか	平久保	星雄
うめ咲（く）や夜ともいはず人にほふ	□□	とちこめて花咲（く）松のにほひ哉	竹房	雪照	
おくれても一けしきあり山桜	□□	梅松	咲梅のこもくおそき山家哉	有旅	竹頭
夜に入（り）てかをり格別梅の花	石川	□□	山姫も客を待（つ）らんさくら時	平久保	雪彦
そこ爰に梅が香のこる二月哉	抗瀬下	文耕	うめさくやはにふの小家もにほはしき	浅野	春萩
さくら葉に羽たゝきする山鳥	中村	鮮明	あみ笠のやぶれも嬉し花の降る	平久保	鶯語
人皆の心うごかすさくら哉	中村	仙花	咲くうめのかをりつゝまむ袖も哉	川口	丹井
恍惚のしたるにほいや軒の梅	芝原	汀鳥	神がきやひさしぶりなる松の花	芝村	和秋
なかんづく松は老木そ花の艶	赤田	太清	是ほどの華にひとつの心哉		千翠
酒くせに覚ふ人あり華の山	竹房	羅久	しらず家も神のほがひや梅の花	平久保	よしき
梅さいてえしれぬ鳥の来鳴哉	竹房	如元	山祇のほこらふりけり松の花	有旅	文秀
山にいて暁見たしさくら時	八幡	桂哉	山家にもゆかりありたし花見時	太田原	梧木
山賤もしはし見よかし月の梅	南牧	□帀	野そたちの松も花さく世なり鳧	川口	美石
うどんげの華には遠し松の花	稻荷山	島斎	白梅に月のけしきを見る夜哉	戸倉	梅窓
酔醒る心持す明のさくら哉	有旅	如鳥	梅の月ねがふ世界となりにけり	上田中島	梅催
梅さくや日をほめながら人の来る	上野	英雅	幾春をへてや華さく神の松	平久保	黛雨
松の花つきせぬ匂ひふくむ哉	峰村	月桂	はるなれやかゝる山家も梅の花	太田原	量水
八重ひとへけしき□□桜哉	柳原	文風	つまづくもしらぬ月夜やうめの春	峰村	月照
梅ばかりもとのいろ香や古やしき	寂蒔	月彦	夜ざくらやすこし嵐もあるけしき	石川	石水

梅さいてミ山の雪もとけむ哉

石川 雨石

闇の夜も梅のミしるき匂ひかな

(桑原) 溪水

白梅や高嶺の雪はいつきゆる

千石 素月

寿や老木の松も花のさく

戸倉 戸六

○ 催主

さる人と酒くミかはす花見時

平久保 行尾

念入(れ)て咲うでもなし遅桜

素竹

草の戸もいよく広し梅の花

坂木 林雪

咲(き)ミちて人恋しいか山さくら

松風

やまざくら心残してかへり鳥

南牧 千枝

人毎におもひのたねの桜哉

和水

梅さいてそもうつくしき日和哉

小沢 素山

時を得て野松も花の咲(く)春か (桑原) 東春

うめが香にならうや□のはしり出す

八幡 月鄭

○

年ふるき枝にこそ見れ松の花

羽尾 亀明

立(ち)出てうたふ桜の月夜哉

当院 栄山

たそがれの鐘にしずまるさくら哉

八幡 月窓

若松に鶴のたつたる春寒ミ

道彦

○ 補助

通夜寒しされども梅のかんばしき

八幡 都邑

人恋し桜にさくらかける山

天姥

ミあらかの雪有(る)のきに梅さきぬ

稻荷山 高嶺

白梅のすきとはれたる朝朗

竹摩

風呂敷をしきものにして花見哉

長沼 子銅

おそいとてミのがされしや山桜

塩崎 素林

存命のもうけのなりも松の花

塩崎 悠々

文政龍輯戊子季春下澣

本山

素竹

老人達のとしはいくつそ松の花

羽尾 其鳥

一谷はほちく松にさくら哉

石川 石蚊

薬ともなるべき梅のほい哉

新田 吉斎

○

梅咲て吾妻のたよりきく日哉

当所 一路

しかすがに咲よしも哉松の花

文好

ぬかづけは薫り尊し神の梅

竹遊

松の花朝なくに露たゝん

梅里

あやなくもかをりしたふや梅の華

金遊

梅が香にまかせん里の草家哉

扇鳥

うめさいて人の機嫌を見る日哉

(八幡) 定丸

梅咲(い)て朝めしおそしとろゝ汁

(小坂) 周月

解説

撰者 宇都呂庵竹摩

この奉納俳額は、縦九十一cm、横三m六十二cm、銅版の大額である。撰及び肉太で個性的な筆も竹摩の手になる。竹摩は安永八年（一七七九）塩崎山崎の北村家で生まれ、文化八年稲荷山の山本家を継いでいる。本名竹五郎。俳諧は戸倉の宮本虎杖に師事、なかば職業俳人であった。

主な額面の作者

月鄭（げつてい） 千曲市八幡の僧。

亀明（きめい） 千曲市戸倉羽尾の人。矢島俊雅。羽尾明徳寺十六世。のち上田海禅寺十七世

都邑（とゆう） 千曲市八幡の武水別神社の神官宮川氏。

栄山（えいざん） 長福寺住職。寺子屋師匠。

道彦（みちひこ） 仙台の人。鈴木由之。別号は金令舎、十時庵、籐垣庵。秋香庵。江戸に出て医業の傍ら春秋庵白雄に俳諧を学び、のちその筆頭格となった。文化二年九月六日没。享年六十三歳。浅草山宿の善教寺に葬る。

一茶（いつさ） 信濃町柏原の人。小林弥太郎。別号杞橋、菊明、亜堂、雲外、蘇生坊、俳諧寺。江戸に出て、当時の江戸俳諧の主流夏目成美、鈴木道彦、建部巢兆らと風交、文化八年頃は著名ながら江戸俳諧に特異な地位を占めた。文政六年十一月十九日、数奇な生涯を終えた。享年六十五歳。柏原の妙専寺に葬られた。

ずぶぬれの大名を見る炬燵かな 一茶

天姥（てんぼ） 篠ノ井長谷の人。岩根慶覚。別号泰山坊、門斎、谷戸山人、超悟。長谷寺二十七世。

俳諧は宮本虎杖の高弟、師の天姥号を譲られた。天保八年一月十七日没。八十二歳。春のかぜ吹そめてより二日かな 天姥

竹摩（ちくま） 千曲市稲荷山の人。山本竹五郎。宮本虎杖に師事、のち高弟となった。

参考文献

本内容は高野六雄著「東北信地方の俳額史」および長野郷土史研究機関誌長野（第一七四号、1994の2）平成六年三月発行、を参考に、千曲市桑原郷土史家堀内暉巳氏の指導によりまとめる。